

彼方 「あなた」

校長通信
H24.4.11
Vol.5

「笑顔」

四月二日の朝の職員打ち合わせで「笑顔」のお話をしました。

「もう一度会いたくなる人は？」と聞かれたらそれは、「いつも明るく笑顔で接してくれる人です。」と答えます。

私の父親は私が五歳の時に交通事故で亡くなりました。兼業農家だった私の家は、曾祖母、祖父母、両親、兄弟、私の八人家族でした。その家族を支えていた父親が三十四歳の若さで亡くなりました。さらにその後を追うように祖父、曾祖母が次々と亡くなり、広い家の中がガラんと寂しくなったのを覚えています。私の母は、百姓仕事と保険の仕事、家事を掛け持ち、祖母と一緒に三人の子どもを育てあげなくてはならなくなりました。私も小学校中学年になると家業を手伝いましたが、その頃の母親の大変さは相当だったと思います。

父の葬儀の時、私を抱きかかえながら、母が

大泣きしていたのを覚えています。しかし、その後の記憶に母の泣き顔はありません。一度も母の辛そうな顔を見た覚えがないのです。いつも笑顔でした。私が問題を起こしても「大丈夫！」と笑顔で言ってくれる人でした。その影響もあり、家の中の私の役割はニコニコしながらおもしろいことをして和ませることだったように思います。

どんなに厳しい状況も好転させてくれるのは「笑顔」です。眉間にしわを寄せて厳しい表情では何一つよくなりません。

子宮頸ガン嫌い、手術と放射線治療受け、完治した女性が、二年後の経過観察で肺に転移している可能性があることがわかり絶望の淵に立たされました。そんな時、友達から「笑顔じゃなくても、どんなに不機嫌でもあなたが生きているだけで嬉しい」という友達の言葉に、自分が生かされているということに気づき、笑顔で癌と向き合うようになりました。そして、笑顔でその辛さを受け入れると不思議なことに癌が小さくなり、抗ガン剤治療直前では、ガン細胞が消えていたのです。

笑顔をつくるには十七の筋肉を使い、しかもつ面には四十七の筋肉が必要だと言われている

ます。大変なことや嫌なことは、笑顔で「大丈夫！」と少ない筋肉で乗り切るのが一番です！
学校の中を笑顔満載にしたい。毎日笑って過ごしたい。どんなに大変なことがあっても笑顔で乗り切りたい！助け合う仲の良い関係こそ笑顔が似合うのです。

朝は、明るい「笑顔」で挨拶しましょう！

辛いときこそ笑顔で「大丈夫！必ずやれるから」と心に誓いましょう。「辛」を「幸」に変える横の一本線が「笑顔」です。

東日本大震災も対話、イベント、笑顔が復興のカギと言われました。被災された方が「笑顔で前向かなにや、なくんもよぐならねえ！大丈夫！必ず復興するから！」と力強く話してくれたのが忘れられません！

口角をちよつとだけ上に引っ張り、笑顔で挨拶を交わし、笑顔満載の明るい学校をみんなで作ろう！

「伝説の学校」の挨拶は、「笑顔の挨拶」です！誰もがもう一度来たくなるような温かい学校です！